

JA 全農ちば 営農情報集

2025 年
7 月

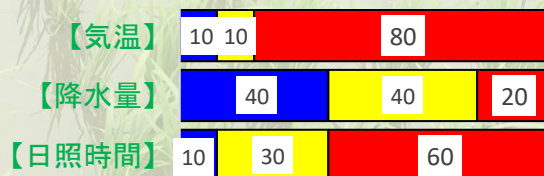


今月の情報

1. 水稲 当面の対策について
2. 園芸品目の高温対策について
3. 果樹（ナシ）病害虫防除情報
4. 農作業事故のリスクを減らしましょう

今月の気象（気象庁 5 / 1 発表 1 か月予報より）

今年の 7 月は平年よりも気温が高くなる予報です。
高温による障害等の発生が懸念されますので、適切な灌水や遮光、遮熱資材などを用いて対策をしましょう。



■：低い ■：平年並み ■：高い

注意とお願い

※ 本資料は、営農情報集に掲載された農薬の登録内容に基づき、農薬の登録内容が変更された場合、本資料の内容は最新の登録内容と異なる場合があります。農薬の登録内容は、農薬の登録内容が変更された場合、本資料の内容は最新の登録内容と異なる場合があります。

水稻・当面の対策について

～コシヒカリの穂肥、乳白防止・カドミウム抑制の水管理、本田防除～

J A 全農ちば 営農支援課

1. はじめに

6 月後半から、気温・日照とも非常に高く推移しています。いずれの品種も水が必要な生育時期になりました。

4 月 20 日植えのコシヒカリ・粒すけは 6 月 22 日頃から、5 月 1 日植えのコシヒカリは 6 月 26 日頃に幼穂形成期を迎えています。

生育は、草丈がやや長く、葉色は「並み～やや濃」で推移しています。倒伏やいもち病の発生に注意に注意しましょう。

今後高温が続くことが予測されますので、白未熟粒の発生抑制のため、まずは湛水管理の徹底をおこないましょう。

2. コシヒカリの穂肥の施用について

穂肥の施用適期は出穂前 18 日～10 日（幼穂形成期 7 日～15 日後・幼穂長 1 cm～8 cm）で、施用量の目安は 10a 当たり窒素と加里を各 3 kg です。施用時期が早いと倒伏や粒数過剰による登熟不足や玄米の外観品質低下を招き、遅い穂肥は玄米中の粗タンパク質含有率が高くなり食味低下につながります。生育を確認し、茎数の多い圃場や葉色の濃い圃場では、施用量を減らして対応しましょう。

表 1：コシヒカリ幼穂形成期予測と穂肥施用適期の目安

植付時期		県北	九十九里	内湾	県南
4 月 20 日	幼穂形成期予測	6 / 24	6 / 22	6 / 19	6 / 19
	穂肥目安	7 / 1～ 7 / 9	6 / 29～ 7 / 7	6 / 26～ 7 / 4	6 / 26～ 7 / 4
5 月 1 日	幼穂形成期予測	6 / 29	6 / 28	6 / 25	6 / 25
	穂肥目安	7 / 6～ 7 / 14	7 / 5～ 7 / 13	7 / 2～ 7 / 10	7 / 2～ 7 / 10

出典：千葉県 水稻の生育状況と当面の対策第 4 報（令和 7 年 6 月 27 日 発行）より

3. 白未熟粒防止とカドミウム吸収抑制のための水管理の徹底を！

白未熟粒と自然由来のカドミウム吸収を抑えるため、幼穂を確認したら入水し、出穂 3 週間前～出穂 2 週間後まで（計 5 週間）は湛水状態を保ち、収穫直前の出穂後 25 日頃まで間断かんがいを続け、早期落水は避けましょう。

4. 斑点米カメムシ類対策について

「ふさおとめ」や「ふさこがね」などの早生品種は、まもなく出穂期を迎えます。出穂後に斑点米カメムシ類が周辺の雑草地などから圃場内に飛び込んできますので、特に注意が必要です。

(1) 雑草防除

圃場周辺の畦畔や休耕田などの雑草地は、カメムシの発生源になるため、雑草防除は効果的ですが、出穂前後の草刈りはカメムシ類を圃場内に追い込むことになりますので、**出穂の2週間前まで**には圃場周辺の雑草を防除しましょう。

(2) 薬剤防除

有人・無人ヘリコプターによる防除を行っている場合でも圃場をよく観察し、必要に応じて追加防除を行ってください。

粉剤または粒剤を使用する場合、粒剤の方が農薬の飛散対策や使用者の労力負担軽減の面で有効的です。散布に当たっては、風向き等の気象状況を十分考慮して散布するようにしましょう。

表2:斑点米カメムシ類対策薬剤防除の目安

出 穂 期	1回目散布(出穂期～穂揃期) 【成虫対象】	2回目散布(乳熟期～糊熟期) 【幼虫対象】
7月15日	7月15日～18日	7月29日～8月 3日
7月20日	7月20日～23日	8月 3日～8月 8日
7月25日	7月25日～28日	8月 8日～8月13日
7月30日	7月30日～8月2日	8月13日～8月18日
8月 5日	8月 5日～8月8日	8月19日～8月24日

※出穂期は、全体の40～50%が出穂した日、穂揃期は、全体の80～90%が出穂した日

クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ



アカスジカスミカメ



表 3：カメムシ類の主要防除薬剤

薬 剤 名	使用量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	備考
スタークル粒剤	3 kg	7 日前まで	3 回以内	出穂期～穂揃期に湛水状態で散布 水深は3～5cmが効果を最大発揮
スタークル豆つぶ	250g			
キラップ粒剤	3 kg	14 日前まで	2 回以内	出穂 10 日前～出穂期に湛水状態で散布
トレボン粉剤DL	3～4 kg	7 日前まで	3 回以内	

○「イネカメムシ」対策について

イネカメムシは、他の斑点米カメムシ類に比べて、出穂時の加害により不稔被害が発生しやすく減収被害につながります。イネカメムシの発生が心配される場合は不稔被害防止を目的として、成虫が侵入する出穂始め～出穂期（出穂直後から4～5割の穂が出穂した時期）を目安に薬剤散布を行いましょう。

5. 本田病害対策について

（1）いもち病

- ・感染に好適な条件は、平均気温 16～25℃で、イネが雨や露で濡れている状態が続くと発生しやすくなります。
- ・蒸れやすい状態（補植用の苗など）や窒素過多でも助長されます。圃場をよく観察し発生に注意し、初期防除に努めましょう。



（2）紋枯病

- ・水田に落ちた菌核が越冬し、代かき時に水面に浮上、イネの株元に付着し伝染します。
- ・高温多湿条件で発生が多く、過繁茂（茎数多）は発病を助長するので注意しましょう。
- ・本病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。
- ・薬剤での防除適期は出穂前20日～15日頃。発病率が高い（株15%以上）場合は、出穂期にも追加防除を行いましょう。



表 4：主な防除薬剤（殺菌剤）

薬 剤 名	使用量 (10a)	適用病害	使用時期 (収穫前日数)	備考
オリブライト 250G	250g	稲こうじ いもち 紋枯	出穂 10 日前まで (但し、収穫 45 日前まで)	予防・治療
ダブルカット粉剤 3DL	3～4kg	いもち	穂揃期まで	予防・治療
モンガリット粒剤	3～4 kg	紋枯 稲こうじ	収穫 30 日前	予防・治療
フジワンモンカット粒剤	3～4 kg	いもち 紋枯	出穂 30～10 日前 但し、収穫 30 日前まで	予防
バリダシン液剤 5	1000 倍	紋枯	1 4 日前まで	治療
ブラシン粉剤 D L	3～4 kg	いもち	7 日前まで	予防・治療

園芸品目の高温対策について

J A全農ちば 営農支援課

1. はじめに

近年、夏季の高温は深刻化を増しており、千葉県的主要品目であるトマトやネギ等にも甚大な被害をおよぼしています。

そのため、農作物安定生産のためには以下の高温・乾燥対策が必要となります。

2. 露地野菜

(1) ネギ

ネギは定植直後の段階で、乾燥により活着が不安定になると欠株が生じやすくなります。ほ場が十分に湿った状態で定植を行い、定植後は必要に応じて水が滞留しないように注意しながらかん水を行うのが理想的です（かん水は日中の高温時を避け、早朝や夕方に実施しましょう）。しかし、かん水の量が多すぎると軟腐病などの発生を助長する恐れがあるので1回あたりのかん水量は10mm程度とし、数回に分けてかん水をしてください。

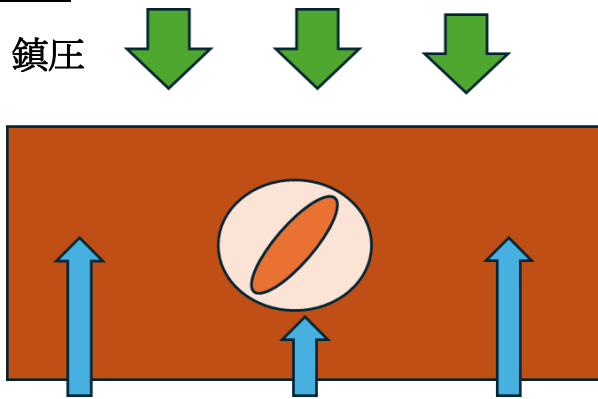
また、高温、乾燥時の根の切断を伴う土寄せはネギに大きなストレスを与え、病害の発生リスクを高めるため控えましょう。



(2) ニンジン

ニンジンの種子は播種から発芽までに7～10日程度かかり、発芽する際に必要な水分を吸収する力が弱い特徴があります。そのため、発芽を安定させるには播種～発芽までの間は土壤水分を十分に維持することが重要です。また、発芽適温は15～25℃であり35℃以上になると急激に発芽が悪くなる場合があります。

播種作業は、土壤水分をしっかりと含んだほ場で耕うん直後に実施し、播種後は発芽安定のため鎮圧ローラなどにより十分鎮圧します。発芽後～本葉6葉期までのかん水は出芽揃いの促進や肩部障害の軽減・初期肥大の促進に有効ですが、ニンジンには高温・多湿条件に非常に弱いのかん水のやりすぎは厳禁です。



鎮圧のメリット

- ① 種子と土壌を密着させる
- ② 水分条件が均一になり発芽が揃いやすくなる
- ③ 水分が蒸発しにくくなる
- ④ 毛管現象により水分が下層からあがってくる

3. 施設野菜(トマト)

(1) 栽培管理の高温対策

近年の高温条件下においては作物の力を最大限に引き出し、暑さに打ち勝つ草勢管理に努めましょう。高温対策に魔法の薬はありません。以下の栽培管理を活用しつつ、基本技術の励行に努めましょう。

① 散水・かん水の改善

これまでのトマト栽培では、根をより深く張らせるため、活着～第1果房開花期までかん水は出来るだけ控える管理を行ってきました。しかし、近年の夏季における異常高温・少雨の条件下では、この期間であっても通路かん水、あるいは頭上散水を活用して、積極的に地表面を湿らす散水を追加し、空中湿度を上げて気化熱を活用した高温対策を行いましょう。また、かん水は少量多かん水とし、出来るだけ土壌水分の乾湿差を小さくして生育の「波」を作らないことが果実品質低下を防ぐために重要です。

② 葉の管理と活かし方

高温の影響を受け、草勢低下等により葉長が短くなったことで葉面積が減り、果実に強い日差しが当たります。それにより果実温度が上昇し、果実の障害が多発しました。このような障害を防ぐために、葉を茂らせて日陰を作り果実温度の上昇を防ぐことが重要です。また、葉を多く残すことで葉からの蒸散による空中湿度を高めることができるので葉を有効的に活用しましょう。



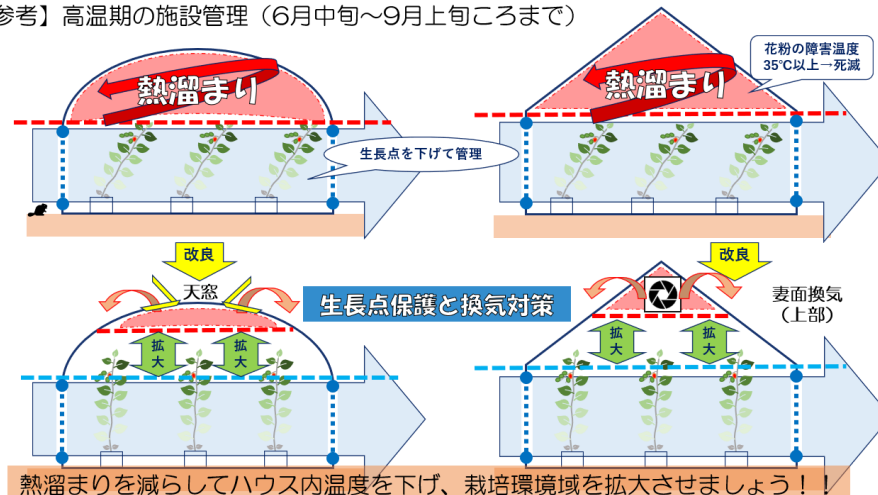
(2) 施設の高温対策

施設の高温対策のポイントは「換気」、「遮光」、「冷却」で構成され、これらの組み合わせをトータルで取り組むことが重要です。とはいえ、コストがかかることなので、できるメニューから取り組みましょう。

① 換気

換気の開口面積の最大化に努めましょう（側窓全開、妻面換気、肩換気）。特に天窓のないハウスでは上部の温まった空気を抜くことが重要になるので、側窓の換気面積を最大化して対策しましょう。

【参考】高温期の施設管理（6月中旬～9月上旬ころまで）



② 遮光

次に遮光対策です。遮光には遮光フィルム・ネットを展張するタイプ、遮光剤の吹き付けタイプがあり、近年の高温下では遮光率 40%前後を推奨します。遮光開始のタイミングは近年の暑さを鑑みると早期（定植 1 週間以上前）に展張し、定植時の地温をできるだけ下げ、活着促進することが上記の栽培管理においても重要になります。しかし、年によっては梅雨の長雨に遭遇する場合もあるため、天気の長期予報などを活用して展張のタイミングを判断しましょう。

③ 冷却

冷却方法には頭上散水や屋根散水などの水の気化熱を利用する冷却が主流です。頭上散水は作物の上部から散水する方式で、作物が濡れるため病害を助長する場合がありますが、夏季高温時には短時間で乾くため高温対策として有効です。屋根散水は屋根全面が濡れるようにかん水チューブを設置します。前述の外部遮光ネットと併せて設置することで、効率よく全体を濡らすことができるため効果的です。

果樹(ナシ)病虫害防除情報

J A全農ちば 営農支援課

1. はじめに

関東甲信地方では連日の気温高が続いております。気温が上昇すると害虫の急増が懸念されます。シンクイムシ等のチョウ目や、果樹カメムシ類、ハダニ類の発生状況をよく確認しましょう。また、引き続き黒星病の拡大には注意が必要です。油断せず、果実の黒星病防除も徹底しましょう。雨が少ない場合、かん水なども可能な限りこまめに実施することも有効的です。

2. 黒星病・輪紋病対策



黒星病



輪紋病

【7月】黒星病、防除薬剤（輪紋病防除を含む）

7月上旬：ミギワ 20フロアブル※1	4,000 倍（収穫前日／3 回）
＋ベルコートフロアブル	1,500 倍（収穫 14 日前／5 回）
7月中旬：カナメフロアブル 【SDHI 剤】※2	4,000 倍（収穫前日／3 回）
＋オーソサイド水和剤 80	1,000 倍（収穫 3 日前／9 回）

- ※1 ミギワ 20 フロアブルの代わりにインダーフロアブル 10,000 倍（収穫 7 日前／3 回）、またはアンビルフロアブル 1,000 倍（収穫 7 日前／3 回）でもよい。
- ※2 カナメフロアブルの代わりにフルーツセイバー 1,500 倍（収穫前日／3 回）でもよい。また、輪紋病対策が必要な場合はパレードフロアブル 15 2,000 倍（収穫前日／2 回）でもよい。

- ・黒星病の感染適温は 15～25℃です。気温が上昇すると黒星病は広がりにくくなります。防除期間終了の目安として、平年ではこの条件となるのは7月中下旬頃です。
- ・今後の防除において、収穫日数が短めの剤にはオーソサイド水和剤 80（3 日前）や、下記の炭そ病対策のストロビードライフフロアブル（前日）があります。
- ・ベルコートフロアブル、オーソサイド水和剤 80 は予防に加え耐性菌発生対策のため使用します。
- ・オーソサイド水和剤 80 は果実汚れを生じる場合があるので、対策が必要な場合、展着剤まくぴか 10,000 倍を加用しましょう。調合時は泡立ち防止のため最後に加えましょう。
- ・収穫期以降の炭そ病対策では、ストロビードライフフロアブル（2,000 倍・収穫前日・3 回以内）を散布します。特に台風が接近する場合は、事前に防除を行いましょう。

3. カメムシ類・シンクイムシ類 **防災網の設置が不十分な園は特に注意！**



カメムシ類・シンクイムシ類

7月上旬：テルスターフロアブル 3,000 倍（収穫前日／2 回）【カメシ・シンクイムシ対策】

7月下旬：サムコルフロアブル 10 5,000 倍（収穫前日／3 回）

【シンクイムシ対策・発生時の緊急防除にも使用】

収穫期：ロディー水和剤 1,000 倍（収穫前日／2 回）【カメシ・シンクイムシ対策】

【カメムシ類 多発生時】

7月下旬：アグロスリン水和剤 1,000 倍（収穫前日／3 回）

8月上旬：スタークル顆粒水溶剤 2,000 倍（収穫前日／3 回）

●カメムシ類防除のポイント

園内のカメムシ類の発生動向とあわせて防除を行いましょう。カメムシの移動範囲は広く、主な発生源は園周辺の各種樹木（主にヒノキ、スギなどの針葉樹）です。夜行性のカメムシ類は日没後2時間ほどしてから見られるため、薬剤防除は夕方に行いましょう。散布作業が始まると園外へ飛散しようとするため、地域でまとまって一斉防除することが理想的です。

4. ハダニ類

被害が目立つのは7月中下旬以降ですが、ハダニ類は梅雨明け後に気温が高くなると急増することがあります。防除遅れとならないよう、梅雨～梅雨明け直前ごろからダニゲッター・ダニコングによる防除を実施し、園内のハダニ類発生状況を確認しながら、必要に応じて薬剤散布時期を調整しましょう。

○ハダニ類防除薬剤

時期※	薬剤名	主な効果	登録内容
6月下旬	カネマイトフロアブル	殺卵・殺成虫	1000 倍・収穫前日・1 回
7月上旬	ダニゲッターフロアブル	殺卵	2000 倍・収穫前日・1 回
7月中旬	ダニコングフロアブル	殺卵・殺成虫	2000 倍・収穫前日・1 回
8月上旬～	マイトコーネフロアブル	殺卵・殺成虫	1000 倍・収穫前日・1 回

※注意：梅雨明け時期を平年とした場合の目安です。必要に応じて散布時期を早めましょう。

農作業事故のリスクを減らしましょう

～熱中症対策～

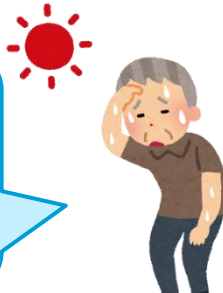
J A全農ちば 営農支援課

1. 熱中症について

千葉県内も、今後連日に渡って気温が高くなることが予想されます。特に晴天時は、ハウス内の気温が上昇しやすく、夏場のビニールハウス内は 40℃を超える場合もあります。そのため、夏場に農作業を実施する場合は、こまめな水分補給を実施し、熱中症や脱水症状を予防しましょう。

2. 熱中症の症状

以下の症状が熱中症の代表的な症状です。これらの症状以外でも「暑い環境での体調不良」はすべて熱中症の可能性があります。

- 
- (1) めまい・吐き気
 - (2) 頭痛
 - (3) 手足のしびれ
 - (4) 汗が大量に出る・汗が出なくなる

- (5) 身体・頭が熱い
- (6) まっすぐ歩けない
- (7) 筋肉のこむら返り
- (8) 意識障害

3. 熱中症対策

- (1) こまめに**水分・塩分補給**をしましょう

汗をかくと体内の「塩分」や「ミネラル」も放出されます。スポーツドリンクのように「塩分」と「糖分」を一緒に摂ると体内への塩分吸収が良くなります。高齢者はのどの渇きや気温の上昇を感じづらく脱水しやすいため、こまめな水分・塩分補給が必要です。

- (2) こまめに**休憩**を取りましょう

日陰等の涼しい場所で休憩し、作業着を緩め、手足を露出して体温を下げましょう。

- (3) 2人以上で作業、もしくは携帯電話等で**すぐに助けを呼べる体制**をつくりましょう

熱中症で倒れてしまった場合、処置が遅れると死亡事故に繋がるリスクが高まります。緊急事態にすぐに気づいてもらう環境づくりが大切です。

- (4) **暑さ指数**もチェックする

環境省から暑さの厳しさを示す指標が出ています。気温とともに参考にしましょう。

環境省：熱中症予防情報サイト：https://www.wbgt.env.go.jp/wbgt_data.php

4. 応急処置について

- (1) 水分補給をしましょう！

経口補水液も有効です。水 1L に対して砂糖 40g、塩 3g で作れます。

- (2) 体温を下げましょう！

首筋、わきの下、脚の付け根などを冷やすとより効果的です。

- (3) 安静にして十分な休憩を取りましょう！

- (4) 救急搬送をしましょう！

自力で水が飲めない場合や、意識が無い場合には**119番**で救急車を呼びましょう！